

1

解答解説のページへ

実数の組 (x, y, z) で, どのような整数 l, m, n に対しても, 等式

$$l \cdot 10^{x-y} - nx + l \cdot 10^{y-z} + m \cdot 10^{x-z} = 13l + 36m + ny$$

が成り立つようなものをすべて求めよ。

2

解答解説のページへ

実数の組 (p, q) に対し, $f(x) = (x-p)^2 + q$ とおく。

- (1) 放物線 $y = f(x)$ が点 $(0, 1)$ を通り, しかも直線 $y = x$ の $x > 0$ の部分と接するよ
うな実数の組 (p, q) と接点の座標を求めよ。
- (2) 実数の組 $(p_1, q_1), (p_2, q_2)$ に対して, $f_1(x) = (x-p_1)^2 + q_1$ および
 $f_2(x) = (x-p_2)^2 + q_2$ とおく。実数 α, β (ただし $\alpha < \beta$) に対して
 $f_1(\alpha) < f_2(\alpha)$ かつ $f_1(\beta) < f_2(\beta)$
であるならば, 区間 $\alpha \leq x \leq \beta$ において不等式 $f_1(x) < f_2(x)$ がつねに成り立つこと
を示せ。
- (3) 長方形 $R: 0 \leq x \leq 1, 0 \leq y \leq 2$ を考える。また, 4 点 $P_0(0, 1), P_1(0, 0), P_2(1, 1),$
 $P_3(1, 0)$ をこの順に結んで得られる折れ線を L とする。実数の組 (p, q) を, 放物
線 $y = f(x)$ と折れ線 L が共有点がないようなすべての組にわたって動かすとき, R
の点のうちで放物線 $y = f(x)$ が通過する点全体の集合を T とする。 R から T を除
いた領域 S を座標平面上に図示し, その面積を求めよ。

3

解答解説のページへ

a, b, c を実数とする。ベクトル $\vec{v}_1 = (3, 0)$, $\vec{v}_2 = (1, 2\sqrt{2})$ をとり, $\vec{v}_3 = a\vec{v}_1 + b\vec{v}_2$ とおく。座標平面上のベクトル \vec{p} に対する条件

$$(*) \quad (\vec{v}_1 \cdot \vec{p})\vec{v}_1 + (\vec{v}_2 \cdot \vec{p})\vec{v}_2 + (\vec{v}_3 \cdot \vec{p})\vec{v}_3 = c\vec{p}$$

を考える。ここで $\vec{v}_i \cdot \vec{p}$ ($i=1, 2, 3$) はベクトル \vec{v}_i とベクトル \vec{p} の内積を表す。このとき以下の問いに答えよ。

- (1) 座標平面上の任意のベクトル $\vec{v} = (x, y)$ が, 実数 s, t を用いて $\vec{v} = s\vec{v}_1 + t\vec{v}_2$ と表されることを, s および t の各々を x, y の式で表すことによって示せ。
- (2) $\vec{p} = \vec{v}_1$ と $\vec{p} = \vec{v}_2$ の両方が条件(*)を満たすならば, 座標平面上のすべてのベクトル \vec{v} に対して, $\vec{p} = \vec{v}$ が条件(*)を満たすことを示せ。
- (3) 座標平面上のすべてのベクトル \vec{v} に対して, $\vec{p} = \vec{v}$ が条件(*)を満たす。このような実数の組 (a, b, c) をすべて求めよ。

1

問題のページへ

等式 $l \cdot 10^{x-y} - nx + l \cdot 10^{y-z} + m \cdot 10^{x-z} = 13l + 36m + ny \cdots \cdots (*)$ が、どのような整数 l, m, n に対しても成立する条件を求める。

まず、 $(l, m, n) = (1, 0, 0), (0, 1, 0), (0, 0, 1)$ のとき、成立することが必要で、

$$10^{x-y} + 10^{y-z} = 13 \cdots \cdots \textcircled{1}, \quad 10^{x-z} = 36 \cdots \cdots \textcircled{2}, \quad -x = y \cdots \cdots \textcircled{3}$$

逆に、 $\textcircled{1}\textcircled{2}\textcircled{3}$ が成立するとき、任意の整数 l, m, n に対して、明らかに $(*)$ は成立することより、求める条件は $\textcircled{1}\textcircled{2}\textcircled{3}$ である。

$$\textcircled{1}\textcircled{3}\text{より}, \quad 10^{2x} + 10^{-x-z} = 13 \cdots \cdots \textcircled{4}$$

ここで、 $10^x = X > 0, 10^z = Z > 0$ とおくと、 $\textcircled{2}\textcircled{4}$ より、

$$\frac{X}{Z} = 36 \cdots \cdots \textcircled{5}, \quad X^2 + \frac{1}{XZ} = 13 \cdots \cdots \textcircled{6}$$

$$\textcircled{5}\textcircled{6}\text{より}, \quad X^2 + \frac{36}{X^2} = 13, \quad X^4 - 13X^2 + 36 = 0 \text{ となり,}$$

$$(X+2)(X-2)(X+3)(X-3) = 0$$

$X > 0$ より、 $X = 2, 3$

(i) $X = 2$ のとき

$$\textcircled{5}\text{より}, \quad Z = \frac{1}{18} \text{ となり, } (x, y, z) = (\log_{10} 2, -\log_{10} 2, -\log_{10} 18)$$

(ii) $X = 3$ のとき

$$\textcircled{5}\text{より}, \quad Z = \frac{1}{12} \text{ となり, } (x, y, z) = (\log_{10} 3, -\log_{10} 3, -\log_{10} 12)$$

[解説]

整数問題の装いをしていますが、実質的には指数・対数がらみの連立方程式を解くものです。

2

問題のページへ

(1) $f(x) = (x-p)^2 + q$ に対して、条件から、 $f(0) = 1$ となり、 $p^2 + q = 1 \dots\dots\dots ①$

次に、 $y = f(x)$ と $y = x$ を連立して、

$$(x-p)^2 + q = x, \quad x^2 - (2p+1)x + p^2 + q = 0 \dots\dots\dots ②$$

$x > 0$ で、 $y = f(x)$ と $y = x$ が接することより、 $f(x) = x$ は正の重解をもち、

$$D = (2p+1)^2 - 4(p^2 + q) = 0 \dots\dots\dots ③, \quad 2p+1 > 0 \dots\dots\dots ④$$

①③より、 $(2p+1)^2 = 4$ となり、④から、 $2p+1 = 2$ 、 $p = \frac{1}{2}$

①に代入すると、 $q = \frac{3}{4}$ となり、このとき②の重解は、 $x = \frac{2p+1}{2} = 1$

よって、接点の座標は、 $(1, 1)$ である。

(2) $g(x) = f_2(x) - f_1(x)$ とおくと、条件より $g(\alpha) > 0$ かつ $g(\beta) > 0$ であり、

$$g(x) = (x-p_2)^2 + q_2 - (x-p_1)^2 - q_1 = -2(p_2-p_1)x + p_2^2 - p_1^2 + q_2 - q_1$$

(i) $p_2 \geq p_1$ のとき $g(x)$ は単調に減少し、 $\alpha < x < \beta$ において、 $g(x) \geq g(\beta) > 0$

(ii) $p_2 < p_1$ のとき $g(x)$ は単調に増加し、 $\alpha < x < \beta$ において、 $g(x) \geq g(\alpha) > 0$

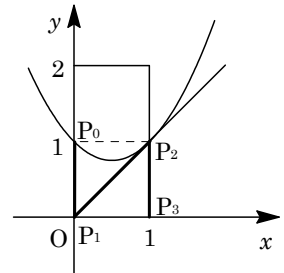
(i)(ii)より、 $\alpha \leq x \leq \beta$ において $f_1(x) < f_2(x)$ が成り立つ。

(3) 点 $(0, 1)$ を通り、直線 $y = x$ と点 $(1, 1)$ で接する放物線

は、(1)より、

$$y = \left(x - \frac{1}{2}\right)^2 + \frac{3}{4} = x^2 - x + 1$$

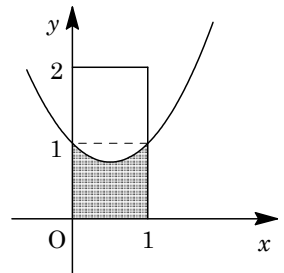
この放物線を $y = f_1(x)$ とおき、放物線 $y = f(x)$ が、不等式 $1 = f_1(0) < f(0)$ かつ $1 = f_1(1) < f(1)$ を満たすとすると、(2)より、 $y = f(x)$ は折れ線 L と共有点をもたない。



また、 $f(0) \leq f_1(0)$ または $f(1) \leq f_1(1)$ が満たされるとき、長方形 R を通過する放物線 $y = f(x)$ は、折れ線 L と共有点をもつ。

そこで、長方形 R を通過する放物線 $y = f(x)$ を、折れ線 L と共有点がないように動かすとき、 $y = f(x)$ が通過する領域は、 $y = f_1(x)$ の上部全体となる。

したがって、長方形 R から、上記の通過領域 T を除いた領域 S を図示すると、右図の網点部となる。ただし、境界線は含む。また、この領域 S の面積は、



$$\int_0^1 (x^2 - x + 1) dx = \frac{1}{3} - \frac{1}{2} + 1 = \frac{5}{6}$$

[解説]

(3)の論理展開は感覚的すぎると思いながらも、この程度の記述に留めました。

3

問題のページへ

(1) $\vec{u}_1 = (3, 0)$, $\vec{u}_2 = (1, 2\sqrt{2})$, $\vec{v} = (x, y)$ に対して, $\vec{v} = s\vec{u}_1 + t\vec{u}_2$ から,

$$3s + t = x \cdots \cdots \textcircled{1}, \quad 2\sqrt{2}t = y \cdots \cdots \textcircled{2}$$

②より, $t = \frac{1}{2\sqrt{2}}y = \frac{\sqrt{2}}{4}y$ となり, ①に代入して, $s = \frac{1}{3}\left(x - \frac{\sqrt{2}}{4}y\right) = \frac{1}{3}x - \frac{\sqrt{2}}{12}y$

(2) 条件より, (*)に $\vec{p} = \vec{u}_1$, $\vec{p} = \vec{u}_2$ を代入すると,

$$(\vec{u}_1 \cdot \vec{u}_1)\vec{u}_1 + (\vec{u}_2 \cdot \vec{u}_1)\vec{u}_2 + (\vec{u}_3 \cdot \vec{u}_1)\vec{u}_3 = c\vec{u}_1 \cdots \cdots \textcircled{3}$$

$$(\vec{u}_1 \cdot \vec{u}_2)\vec{u}_1 + (\vec{u}_2 \cdot \vec{u}_2)\vec{u}_2 + (\vec{u}_3 \cdot \vec{u}_2)\vec{u}_3 = c\vec{u}_2 \cdots \cdots \textcircled{4}$$

③から, $(\vec{u}_1 \cdot s\vec{u}_1)\vec{u}_1 + (\vec{u}_2 \cdot s\vec{u}_1)\vec{u}_2 + (\vec{u}_3 \cdot s\vec{u}_1)\vec{u}_3 = cs\vec{u}_1$

④から, $(\vec{u}_1 \cdot t\vec{u}_2)\vec{u}_1 + (\vec{u}_2 \cdot t\vec{u}_2)\vec{u}_2 + (\vec{u}_3 \cdot t\vec{u}_2)\vec{u}_3 = ct\vec{u}_2$

$$(\vec{u}_1 \cdot (s\vec{u}_1 + t\vec{u}_2))\vec{u}_1 + (\vec{u}_2 \cdot (s\vec{u}_1 + t\vec{u}_2))\vec{u}_2 + (\vec{u}_3 \cdot (s\vec{u}_1 + t\vec{u}_2))\vec{u}_3 = c(s\vec{u}_1 + t\vec{u}_2)$$

よって, $(\vec{u}_1 \cdot \vec{v})\vec{u}_1 + (\vec{u}_2 \cdot \vec{v})\vec{u}_2 + (\vec{u}_3 \cdot \vec{v})\vec{u}_3 = c\vec{v} \cdots \cdots \textcircled{5}$ が成立する。

(3) すべてのベクトル \vec{v} に対して⑤が成立する条件は, (2)より, ③④がともに成立する条件に等しい。すると, $\vec{v}_3 = a\vec{v}_1 + b\vec{v}_2$ を用いて,

$$\vec{v}_3 \cdot \vec{u}_1 = (a\vec{v}_1 + b\vec{v}_2) \cdot \vec{u}_1 = 9a + 3b, \quad \vec{v}_3 \cdot \vec{u}_2 = (a\vec{v}_1 + b\vec{v}_2) \cdot \vec{u}_2 = 3a + 9b$$

③より, $9\vec{v}_1 + 3\vec{v}_2 + (9a + 3b)(a\vec{v}_1 + b\vec{v}_2) = c\vec{v}_1$

$$(9 + 9a^2 + 3ab - c)\vec{v}_1 + 3(1 + 3ab + b^2)\vec{v}_2 = \vec{0} \cdots \cdots \textcircled{6}$$

④より, $3\vec{v}_1 + 9\vec{v}_2 + (3a + 9b)(a\vec{v}_1 + b\vec{v}_2) = c\vec{v}_2$

$$3(1 + a^2 + 3ab)\vec{v}_1 + (9 + 3ab + 9b^2 - c)\vec{v}_2 = \vec{0} \cdots \cdots \textcircled{7}$$

ここで, \vec{v}_1, \vec{v}_2 は 1 次独立なので, ⑥⑦より,

$$9 + 9a^2 + 3ab - c = 0 \cdots \cdots \textcircled{8}, \quad 1 + 3ab + b^2 = 0 \cdots \cdots \textcircled{9}$$

$$1 + a^2 + 3ab = 0 \cdots \cdots \textcircled{10}, \quad 9 + 3ab + 9b^2 - c = 0 \cdots \cdots \textcircled{11}$$

⑨⑩より $a^2 = b^2$ すなわち $b = \pm a$ となり, このとき⑧と⑪は一致する。

(i) $b = a$ のとき ⑨より, $a^2 + 3a^2 + 1 = 0$ となり, 不適である。

(ii) $b = -a$ のとき ⑨より, $a^2 - 3a^2 + 1 = 0$ となり,

$$a = \pm \frac{1}{\sqrt{2}}, \quad b = \mp \frac{1}{\sqrt{2}} \quad (\text{複号同順})$$

⑧に代入して, $c = 9 + \frac{9}{2} - \frac{3}{2} = 12$

(i)(ii)より, $(a, b, c) = \left(\frac{1}{\sqrt{2}}, -\frac{1}{\sqrt{2}}, 12\right), \left(-\frac{1}{\sqrt{2}}, \frac{1}{\sqrt{2}}, 12\right)$

[解説]

ベクトルの内積が題材となっていますが, 内容は連立方程式です。この点で, 第 1 問と類似しています。